

平成21年3月期 第1四半期決算短信

平成20年7月30日

上場会社名 株式会社 ファンケル

上場取引所 東

コード番号 4921 URL <http://www.fancl.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長執行役員 (氏名) 成松 義文

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員経理・総務・人事ユニット長 (氏名) 江上 克彦

TEL 045-226-1200

四半期報告書提出予定日 平成20年8月13日

(百万円未満切捨て)

1. 平成21年3月期第1四半期の連結業績(平成20年4月1日～平成20年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
21年3月期第1四半期	24,753	—	2,247	—	2,329	—	1,109	—
20年3月期第1四半期	24,929	2.7	2,470	95.9	2,495	101.5	1,208	47.7

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
21年3月期第1四半期	18.11	18.10
20年3月期第1四半期	18.88	18.76

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	円 銭	百万円	円 銭	%	円 銭
21年3月期第1四半期	85,420	1,147.97	70,664	1,147.97	82.4	1,147.97
20年3月期	85,685	1,141.56	70,268	1,141.56	81.6	1,141.56

(参考) 自己資本 21年3月期第1四半期 70,345百万円 20年3月期 69,899百万円

2. 配当の状況

(基準日)	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	年間
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
20年3月期	—	12.00	—	12.00	24.00
21年3月期	—	—	—	—	—
21年3月期(予想)	—	12.00	—	12.00	24.00

(注)配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成21年3月期の連結業績予想(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

(%表示は通期は対前期、第2四半期連結累計期間は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期連結累計期間	48,900	1.0	3,150	△6.3	3,150	△10.2	1,650	14.6	26.95
通期	101,500	2.2	8,000	7.1	8,000	3.0	4,200	13.7	68.59

(注)連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無
新規 一社(社名) 除外 一社(社名)

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有

[(注)詳細は、5ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。]

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更)に記載されるもの)

① 会計基準等の改正に伴う変更 有

② ①以外の変更 有

[(注)詳細は、5ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。]

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 21年3月期第1四半期 70,176,600株 20年3月期 70,176,600株

② 期末自己株式数 21年3月期第1四半期 8,898,067株 20年3月期 8,944,863株

③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間) 21年3月期第1四半期 61,260,570株 20年3月期第1四半期 64,037,168株

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は経済情勢等様々な不確定要因により、これらの予想数値と異なる場合があります。次期の見通しについては、4ページ【定性的情報・財務諸表等】「3. 連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

2. 当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

定性的情報・財務諸表等

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当四半期におけるわが国経済は、金融不安、原油・原材料価格の高騰などにより経営環境は悪化し、先行き不透明な状況で推移しました。個人消費も低迷が続き、景気の減速懸念がさらにひろがりました。

このような状況のもと、化粧品業界は抗老化を訴求する一部基礎化粧品に伸長がみられるものの、全体としては横ばい傾向にあります。

一方、健康食品業界は、市場調整の局面が続くなかで企業間格差が生じてまいりました。

当第1四半期の売上高は、化粧品関連事業は主力製品のリニューアルなどにより好調に推移しましたが、いいもの王国通販事業などのその他事業が不振で、24,753百万円（前年同期比0.7%減）となりました。新物流センターの立ち上げに係る経費増などにより、営業利益は2,247百万円（前年同期比9.0%減）、売上高営業利益率は0.8ポイント低下し9.1%となり、経常利益は2,329百万円（前年同期比6.7%減）、売上高経常利益率は0.6ポイント低下し9.4%となりました。

土地・建物に係る減損損失178百万円などの特別損失を計上したため、四半期純利益は1,109百万円（前年同期比8.2%減）、売上高四半期純利益率は前年同期より0.3ポイント低下し4.5%となりました。

① 化粧品関連事業

売上高

化粧品関連事業の売上高は12,578百万円（前年同期比3.3%増）となりました。

	平成20年3月期 第1四半期		平成21年3月期 第1四半期		伸び率 (%)
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	
ファンケル化粧品	9,399	77.2	9,709	77.2	3.3
アテナ化粧品	2,653	21.8	2,674	21.3	0.8
その他	127	1.0	194	1.5	53.1
合計	12,180	100.0	12,578	100.0	3.3

	平成20年3月期 第1四半期		平成21年3月期 第1四半期		伸び率 (%)
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	
通信販売	6,527	53.6	6,615	52.6	1.4
店舗販売	4,423	36.3	4,394	34.9	△ 0.7
卸販売他	1,230	10.1	1,568	12.5	27.5
合計	12,180	100.0	12,578	100.0	3.3

ファンケル化粧品は、前期にリニューアルした基礎化粧品が好調に推移したことに加え、マイルドクレンジングオイルなどの定番製品が堅調で、9,709百万円（前年同期比3.3%増）となりました。

アテナ化粧品は、季節限定製品が好調だったことなどにより、2,674百万円（前年同期比0.8%増）となりました。

販売チャネル別では、通信販売は6,615百万円（前年同期比1.4%増）、店舗販売は4,394百万円（前年同期比0.7%減）、卸販売他チャネルは海外向けが好調で1,568百万円（前年同期比27.5%増）となりました。

営業損益

損益面では、諸経費が増加したことにより、営業利益は2,240百万円（前年同期比9.6%減）、営業利益率は前年同期に比べ2.5ポイント低下し17.8%となりました。

② 栄養補助食品関連事業

売上高

栄養補助食品関連事業の売上高は7,466百万円（前年同期比1.2%減）となりました。

	平成20年3月期 第1四半期		平成21年3月期 第1四半期		伸び率 (%)
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	
通信販売	3,401	45.0	3,305	44.3	△ 2.8
店舗販売	2,185	28.9	2,066	27.7	△ 5.4
卸販売他	1,969	26.1	2,093	28.0	6.3
合計	7,556	100.0	7,466	100.0	△ 1.2

製品面では、積極的なマーケティング活動を行ったHTCコラーゲンなどビューティサプリメントは好調でしたが、ビタミン、ミネラルなどそれ以外の製品群の売上減少をカバーするには至りませんでした。

販売チャネル別では、通信販売は3,305百万円（前年同期比2.8%減）、店舗販売は2,066百万円（前年同期比5.4%減）、卸販売他チャネルは海外向けが好調で2,093百万円（前年同期比6.3%増）となりました。

営業損益

損益面では、利益率の高い製品の売上構成比が上昇したことなどにより原価率が改善し、営業利益は940百万円（前年同期比5.7%増）、営業利益率は前年同期に比べ0.8ポイント上昇し12.6%となりました。

③ その他事業

売上高

その他事業の売上高は4,709百万円（前年同期比9.3%減）となりました。

	平成20年3月期 第1四半期 (百万円)	平成21年3月期 第1四半期 (百万円)	伸び率 (%)
発芽米事業	1,001	1,001	△ 0.0
青汁事業	1,007	915	△ 9.1
いいもの王国通販事業	2,268	1,894	△16.5
その他の事業	916	897	△ 2.0
合計	5,192	4,709	△ 9.3

発芽米事業は、通信販売と業務用が拡大しておりますが、前年4月は20%の値下げ直後で売上の水準が高かったこともあり、売上高は1,001百万円（前年同期比0.0%減）となりました。

青汁事業は、冷凍タイプが不振で、売上高は915百万円（前年同期比9.1%減）となりました。

いいもの王国通販事業は、カタログでの販売が不振で、売上高は1,894百万円（前年同期比16.5%減）となりました。

その他の事業は、雑貨の販売は堅調に推移しましたが、肌着が不振で、売上高は897百万円（前年同期比2.0%減）となりました。

営業損益

損益面では、経費の効率化により発芽米事業や青汁事業の損益が改善したことにより、営業損失は前年同期に比べ145百万円縮小し263百万円となりました。

[ご参考：業態別店舗数]

	平成20年6月末	前期末比
ファンケル銀座スクエア	1	—
ファンケルショップ（次世代店舗）	9	+2
ファンケルハウス	98	△2
ファンケルハウスJ	86	△1
元気ステーション	8	—
アテナショップ	12	+1
その他	4	—
合計	218	—

2. 連結財政状態に関する定性的情報

資産は前連結会計年度末に比べ265百万円減少し、85,420百万円となりました。この要因といたしまして、流動資産については、有価証券の増加2,002百万円、現金及び預金の減少2,026百万円、たな卸資産の減少などにより、前連結会計年度末と比較して12百万円増加いたしました。固定資産については、新規及びリニューアル店舗用設備や新物流センターのシステム整備などにより有形固定資産及び無形固定資産が増加したものの、減価償却の実施による減少により、前連結会計年度に比べ277百万円減少いたしました。

負債は前連結会計年度末に比べて660百万円減少し、14,756百万円となりました。この要因といたしまして、流動負債は賞与引当金の増加があったものの、買掛金や未払法人税等などが減少したため、前連結会計年度末に比べ619百万円減少いたしました。固定負債は、役員退職慰労金の支給による長期未払金の減少により、前連結会計年度末に比べ41百万円減少いたしました。

純資産は、前連結会計年度末と比較して395百万円増加し、70,664百万円となりました。この要因といたしましては、四半期純利益の計上による利益剰余金の増加などによるものであります。

この結果、自己資本比率は前連結会計年度末と比較して0.8ポイント改善し82.4%となりました。

(キャッシュ・フローの状況)

当第1四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は24,037百万円となり、前連結会計年度末より23百万円減少いたしました。各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は1,431百万円となりました。この内訳の主なものとは税金等調整前四半期純利益2,115百万円、減価償却費714百万円などによる増加と、法人税等の支払額1,753百万円などによる減少であります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は799百万円となりました。これは主に、新規及びリニューアル店舗用設備や新物流センターのシステム整備等による有形固定資産の取得による支出697百万円、無形固定資産の取得による支出180百万円などによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は663百万円となりました。これは主に、配当金の支払額647百万円の支出などによるものであります。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

業績予想につきましては概ね計画通り推移しており、現時点では前回発表（平成20年5月1日）の業績予想に変更はありません。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

① 一般債権の貸倒見積高の算定方法

当第1四半期連結会計期間末の貸倒実績率等が前連結会計年度末に算定したものと著しい変化がないと認められるため、前連結会計年度末において算定した貸倒実績率等を使用して貸倒見積高を算定しております。

② 棚卸資産の評価方法

当第1四半期連結会計期間末の棚卸高の算出に関しては、実地棚卸を省略し前連結会計年度末に係る実地棚卸高を基礎として合理的な方法により算定する方法によっております。

また、棚卸資産の簿価切下げに関しては、収益性の低下が明らかなものについてのみ正味売却価額を見積もり、簿価切下げを行う方法によっております。

③ 固定資産の減価償却費の算定方法

定率法を採用している資産については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第12号）及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第14号）を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

② 通常の販売目的で保有する棚卸資産については、従来、主として総平均法による原価法によっておりましたが、当第1四半期連結会計期間より「棚卸資産の評価に関する会計基準」（企業会計基準第9号 平成18年7月5日）が適用されたことに伴い、主として総平均法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）によって算定しております。

また、上記の会計基準の適用にあたって、従来は営業外費用に計上していた「たな卸資産廃棄損」を、当第1四半期連結会計期間より売上原価に含めております。

これらの変更により、従来の方法によった場合に比べて、営業利益が72百万円、経常利益が4百万円及び税金等調整前四半期純利益が39百万円それぞれ減少しております。

セグメントに与える影響は、5. 四半期連結財務諸表（5）（セグメント情報）をご覧ください。

③ 当第1四半期連結会計期間から、機械装置の耐用年数については法人税法の改正を契機として見直しを行い、一部の資産について耐用年数を変更しております。

なお、この変更に伴う営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益への影響は、軽微であります。

④ 所有権移転外ファイナンス・リース取引については、従来、賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっておりましたが、「リース取引に関する会計基準」（企業会計基準第13号（平成5年6月17日（企業会計審議会第一部会）、平成19年3月30日改正））及び「リース取引に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第16号（平成6年1月18日（日本公認会計士協会 会計制度委員会）、平成19年3月30日改正））が平成20年4月1日以後開始する連結会計年度に係る四半期連結財務諸表から適用することができることになったことに伴い、当第1四半期連結会計期間からこれらの会計基準等を適用し、通常の売買取引に係る会計処理によっております。また、所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産の減価償却の方法については、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

この変更に伴う営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益への影響はありません。

5. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成20年6月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	14,525	16,551
受取手形及び売掛金	10,207	10,053
有価証券	15,511	13,508
商品	2,353	2,658
製品	658	571
原材料	2,741	3,023
仕掛品	73	78
その他	3,099	2,717
貸倒引当金	△155	△159
流動資産合計	49,016	49,003
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	21,248	21,140
減価償却累計額及び減損損失累計額	△10,346	△10,112
建物及び構築物(純額)	10,902	11,028
機械装置及び運搬具	5,473	5,419
減価償却累計額及び減損損失累計額	△4,083	△4,014
機械装置及び運搬具(純額)	1,390	1,404
工具、器具及び備品	5,769	5,724
減価償却累計額	△4,663	△4,639
工具、器具及び備品(純額)	1,105	1,085
土地	10,695	10,901
その他	248	74
有形固定資産合計	24,343	24,494
無形固定資産		
のれん	710	738
その他	2,865	2,953
無形固定資産合計	3,576	3,692
投資その他の資産	8,485	8,496
固定資産合計	36,404	36,682
資産合計	85,420	85,685

(単位：百万円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成20年6月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,283	3,599
未払法人税等	1,152	1,865
賞与引当金	1,591	1,037
ポイント引当金	1,476	1,496
その他	4,830	4,954
流動負債合計	12,334	12,953
固定負債		
退職給付引当金	1,682	1,642
役員退職慰労引当金	47	46
その他	692	773
固定負債合計	2,421	2,462
負債合計	14,756	15,416
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,795	10,795
資本剰余金	11,865	11,861
利益剰余金	58,982	58,608
自己株式	△11,327	△11,387
株主資本合計	70,315	69,877
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	34	27
為替換算調整勘定	△4	△4
評価・換算差額等合計	29	22
新株予約権	219	275
少数株主持分	99	94
純資産合計	70,664	70,268
負債純資産合計	85,420	85,685

(2) 四半期連結損益計算書
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	当第1四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年6月30日)
売上高	24,753
売上原価	7,987
売上総利益	16,765
販売費及び一般管理費	14,518
営業利益	2,247
営業外収益	
受取利息	30
受取配当金	1
雑収入	76
営業外収益合計	108
営業外費用	
支払利息	0
為替差損	9
雑損失	16
営業外費用合計	26
経常利益	2,329
特別利益	
固定資産売却益	5
償却債権取立益	7
その他	0
特別利益合計	13
特別損失	
固定資産除却損	8
減損損失	178
その他	40
特別損失合計	226
税金等調整前四半期純利益	2,115
法人税、住民税及び事業税	1,119
法人税等調整額	△118
法人税等合計	1,000
少数株主利益	5
四半期純利益	1,109

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

当第1四半期連結累計期間
(自 平成20年4月1日
至 平成20年6月30日)

営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純利益	2,115
減価償却費	714
減損損失	178
株式報酬費用	35
のれん償却額	28
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△4
賞与引当金の増減額 (△は減少)	554
ポイント引当金の増減額 (△は減少)	△20
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	39
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	0
受取利息及び受取配当金	△31
支払利息	0
為替差損益 (△は益)	△0
固定資産売却損益 (△は益)	△5
固定資産除却損	8
売上債権の増減額 (△は増加)	△154
たな卸資産の増減額 (△は増加)	531
その他の流動資産の増減額 (△は増加)	△353
仕入債務の増減額 (△は減少)	△315
その他の流動負債の増減額 (△は減少)	△35
その他の固定負債の増減額 (△は減少)	△118
その他	△0
小計	3,165
利息及び配当金の受取額	18
利息の支払額	△0
その他の収入	0
法人税等の支払額	△1,753
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,431
投資活動によるキャッシュ・フロー	
有価証券の取得による支出	△999
有価証券の売却及び償還による収入	999
有形固定資産の取得による支出	△697
有形固定資産の売却による収入	70
無形固定資産の取得による支出	△180
貸付金の回収による収入	4
その他の支出	△20
その他の収入	24
投資活動によるキャッシュ・フロー	△799

(単位：百万円)

当第1四半期連結累計期間
 (自 平成20年4月1日
 至 平成20年6月30日)

財務活動によるキャッシュ・フロー	
長期借入金の返済による支出	△12
自己株式の処分による収入	0
自己株式の取得による支出	△0
配当金の支払額	△647
その他	△3
財務活動によるキャッシュ・フロー	△663
現金及び現金同等物に係る換算差額	7
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△23
現金及び現金同等物の期首残高	24,060
現金及び現金同等物の四半期末残高	24,037

当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

(4) 継続企業の前提に関する注記
該当事項はありません。

(5) セグメント情報

a. 事業の種類別セグメント情報

当第1四半期連結累計期間(自平成20年4月1日至平成20年6月30日)

	化粧品 関連事業 (百万円)	栄養補助食品 関連事業 (百万円)	その他事業 (百万円)	計 (百万円)	消去 又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	12,578	7,466	4,709	24,753	—	24,753
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	12,578	7,466	4,709	24,753	—	24,753
営業利益又は営業損失(△)	2,240	940	△263	2,917	(669)	2,247

(注) 1 事業区分は、内部管理上採用している区分によっております。

2 各事業の主な製品

(1) 化粧品関連事業……各種化粧品の通信販売・店舗販売・卸販売

(2) 栄養補助食品関連事業…各種栄養補助食品の通信販売・店舗販売・卸販売

(3) その他事業……………雑貨・装身具類・肌着類・健康器具・家庭用雑貨の通信販売、発芽米事業、青汁事業
他

3 会計処理の方法の変更

(棚卸資産の評価に関する会計基準)

「四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更」の②に記載のとおり、当第1四半期連結会計期間より「棚卸資産の評価に関する会計基準」(企業会計基準第9号 平成18年7月5日)を適用しております。

上記の会計基準の適用に伴い、従来の方法によった場合に比べて、営業利益は化粧品関連事業17百万円、栄養補助食品関連事業47百万円、その他事業8百万円それぞれ減少しております。

b. 所在地別セグメント情報

当第1四半期連結累計期間(自平成20年4月1日至平成20年6月30日)

全セグメントの売上高の合計額に占める日本の割合が90%を超えているため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

c. 海外売上高

当第1四半期連結累計期間(自平成20年4月1日至平成20年6月30日)

海外売上高は、連結売上高の10%未満であるため、海外売上高の記載を省略しております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

「参考資料」

前四半期に係る財務諸表等

(1) (要約) 四半期連結損益計算書

科目	前年同四半期 (平成20年3月期 第1四半期)
	金額 (百万円)
I 売上高	24,929
II 売上原価	8,111
売上総利益	16,818
III 販売費及び一般管理費	14,347
営業利益	2,470
IV 営業外収益	119
受取利息及び配当金	32
その他営業外収益	87
V 営業外費用	94
たな卸資産廃棄損	75
その他営業外費用	19
経常利益	2,495
VI 特別利益	—
VII 特別損失	289
固定資産処分損	3
その他特別損失	286
税金等調整前四半期純利益	2,205
税金費用	996
四半期純利益	1,208

(2) (要約) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

	前年同四半期 (平成20年3月期 第1四半期)
区分	金額 (百万円)
I 営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純利益	2,205
減価償却費	702
賞与引当金の増減額 (減少: △)	487
退職給付引当金の増減額 (減少: △)	28
受取利息及び配当金	△32
有形固定資産処分損	3
売上債権の増減額 (増加: △)	△232
たな卸資産の増減額 (増加: △)	△276
その他の流動資産の増減額 (増加: △)	△259
仕入債務の増減額 (減少: △)	211
その他の流動負債の増減額 (減少: △)	734
その他	△201
小計	3,370
利息及び配当金の受取額	30
法人税等の支払額	△1,766
その他	64
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,697
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	
有価証券の取得による支出	△4,492
有価証券の償還による収入	4,997
有形固定資産の取得による支出	△232
無形固定資産の取得による支出	△498
その他の投資の取得による支出	△26
その他	193
投資活動によるキャッシュ・フロー	△58
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	
自己株式の取得・売却による純収入 (純支出: △)	205
配当金の支払額	△617
財務活動によるキャッシュ・フロー	△412
IV 現金及び現金同等物に係る換算差額	—
V 現金及び現金同等物の増加額 (又は減少額)	1,226
VI 現金及び現金同等物の期首残高	23,411
VII 現金及び現金同等物の期末残高	24,638

(3) セグメント情報

a. 事業の種類別セグメント情報

前年同四半期 (平成20年3月期第1四半期)

	化粧品 関連事業 (百万円)	栄養補助食品 関連事業 (百万円)	その他の事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高	12,180	7,556	5,192	24,929	—	24,929
営業費用	9,702	6,666	5,601	21,971	488	22,459
営業利益又は 営業損失 (△)	2,478	889	△409	2,958	(488)	2,470

b. 所在地別セグメント情報

前年同四半期 (平成20年3月期第1四半期)

売上高の合計に占める日本の割合が90%を超えるため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

c. 海外売上高

前年同四半期 (平成20年3月期第1四半期)

海外売上高が連結売上高の10%未満のため、海外売上高の記載を省略しております。